

## 紫波町土館新山神社の文化財

佐々木 勝宏

岩手県立博物館, 020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34. Iwate Prefectural Museum, Morioka 020-0102, Japan.

### 1. はじめに

紫波町西方連山のテレビ塔が林立する山頂際の杉林のなかに新山神社奥宮が鎮座する。西南へなだらかに開け、出羽三山の遥拝所であったという伝承も領ける地形で、隣接地はゴルフ場に活用されている。奥宮までの急勾配の道からは、紫波の田園風景が一望できる。神社所蔵の文化財のうち、和鏡を中心に研究資料として紹介しておきたい。

### 2. 新山神社の変遷

奥州合戦後、源頼朝の臣小山朝祐が創建し、斯波氏の庇護を受けていたと伝えられる。元和二年(1616)に南部利直から社領20石の寄進を受け、尊崇されていた。盛岡城下形成期に加賀野に移され新山寺と呼ばれた。山頂に残った堂宇は承応二年(1653)に山火事によって失われた。寛文十二年(1672)の八戸藩と盛岡藩との藩境画定の際に、西北東の鎮山に鷲嶺(岩手山)と姫神岳と早池峰をあて、南が欠けるために新山をこれにあてたため、八戸藩領域にありながら、境内地を隠山として盛岡藩宮手村の飛地として残した。この際に築かれた藩境塚が半数以上残っている。『邦内郷村志』には霊現あらたかで、藩も毎年の祭祀を怠らず、庶民の参詣も絶えないが、詳しい由来はわからないと記している。新山寺領は宝永六年(1709)に百石加えられ計百二十石となった。藩主は南部利幹である。神仏分離令により、新山之衛が還俗して神官となった明治三年に新山権現宮から新山神社と改め、その後祭神を倉稲魂命とした。明治十七年(1884)と明治十九年(1886)に本殿と拝殿建立に先立っての整地作業中に古鏡・懸仏などが発見され、『全国宝物参攷簿』に登録された。藩境塚構築時に作成された絵図には茅葺屋根の二堂が描かれている。不動堂と本堂である。不動堂の本尊不動明王坐像と脇侍二童子像も里宮に現存する。本尊に年紀銘はないが、二童子像背面裾部の漆書によって万治三年(1660)の奉納で、八戸分封の寛文四年(1664)以前のこととなる。

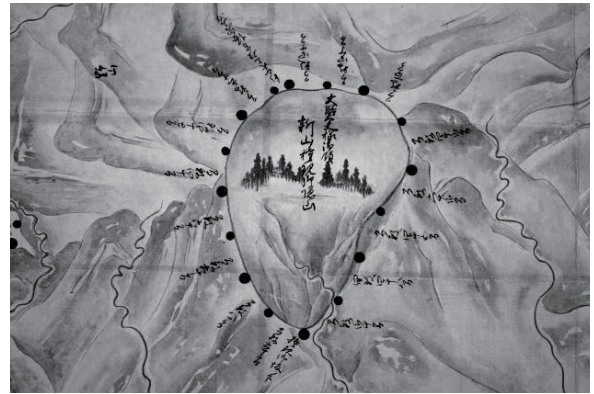


図. 盛岡市中央公民館蔵 志和領図 新山部分

### 3. 和鏡と信仰

平安時代末期から鎌倉時代にかけての和鏡は、奥州藤原氏の分家比爪氏の奉納と考えられる。経塚経壺の蓋、あるいは堂内に懸けられていたのか、山形県の出羽三山神社鏡池のように池に奉納したものなのかわからない。新山にも小池があったという伝承もある。隣の志和稲荷神社には、斯波氏支配時代の南北朝から室町期にかけての鏡が伝わるが、新山にはない。但し、藩政期のものは寛永年間から幕末まで様々な鏡が20面伝わる。このことは、藩政期に新山への信仰が途絶えなかったことを証明している。江戸期の和鏡のおおよそその変遷にそって、ボテ鏡、大家紋入、大文字入、名所、吉祥蓬莱柄鏡の順で一覧にまとめてみた(次頁表)。

### 4. おわりに

今後は、和鏡については重さや形状と、「天下一」使用の有無や「国司称号」「苗字」銘などから製作年代について考察して、年代をもう少し絞りたい。図柄の梅や南天の登場時期や亀の首の向きなども鍵になると思われる。和鏡(No.8～No.27)、鉄造懸仏(No.29～No.35)についても中尊像の形状や鏡板の厚さ、縁の高さなどを他例と比較してみたい。基準作などの紹介を待ちたい。

紫波町土館新山神社所蔵文化財一覧

No.	種別	名称	指定	直径	縁高	重量	
				mm	mm	g	
1	和鏡1	銅双雀鏡（鵲円鏡）	県	96	3	40	
2		銅秋草双雀鏡	県	111	6	120	
3	(古代)	銅梅花双雀鏡	県	110	5	47	
4		銅菊花双雀鏡	県	87	4	54	
5	(中世)	銅秋草双雀鏡	町	100	6	176	
6		銅菊花双雀鏡		111	9	189	
7		銅亀甲地双雀鏡		108	8	219	
8	和鏡2	丸揚羽蝶紋双鶴接吻蓬萊鏡		117	20	1013	
9		無紋双鶴接吻蓬萊鏡		123	18	631	
10		五三桐紋双鶴接吻蓬萊鏡		106	16	273	
11		五三桐紋双鶴接吻蓬萊鏡		116	12	203	
12		無紋双鶴接吻蓬萊鏡		106	11	334	
13		六角内三葉紋花菖蒲柄鏡		120	4	167	
14		亀甲地桔梗大紋柄鏡		244	6	1201	
15		菱内二重丸十字四星大紋柄鏡		150	3	302	
16		丸内三割菊花外菊葉大紋柄鏡		109	3	108	
17		蔦陰蔦大紋松竹南天鶴亀柄鏡		243	7	1571	
18		七五桐大紋柄鏡		215	5	1041	
19		八橋文字入光琳波燕子花図柄鏡		237	3	870	
20		丹頂文字入瑞雲双鶴図柄鏡		242	3	780	
21		三保の松原富士帆掛船図柄鏡		184	5	614	
22		(近世)	金雲磯辺楼閣山水図柄鏡		113	4	206
23			松竹鶴亀荒磯蓬萊図柄鏡		242	5	892
24			松竹梅鶴亀蓬萊図柄鏡		120	5	243
25			松竹鶴亀蓬萊図柄鏡		145	3	227
26			松竹鶴亀蓬萊図柄鏡		152	4	372
27		松竹鶴亀蓬萊図柄鏡		78	2	43	
28	懸仏	金銅懸仏（千手観音坐像）	県	87	52	59	
29		鉄造聖観音菩薩坐像懸仏		5片			
30		鉄造坐像懸仏		2片			
31		鉄造聖観音菩薩坐像懸仏		2片			
32		鉄造坐像懸仏		2片			
33		鉄造聖観音菩薩立像懸仏		1片			
34		鉄造菩薩坐像懸仏		1片			
35		鉄造坐像懸仏		1片			
36	罌口	元文四年銘		径210・内160・幅52・両耳23			
37		文政八年銘		径280・内153・幅75・両耳35			
38		明治以降		径430・内332・幅155・両耳52			
39	仏像	木造不動明王坐像	町	総高710・像高390・肩張230			
40		木造不動明王衿羯羅童子立像		像高510・肩張155・蕾蓮持つ			
41		木造不動明王制多迦童子立像		像高530・肩張153・棍棒持つ			
42		木造厨子入十一面観音菩薩立像		厨子総高460・幅220			
43	壺	常滑産三筋文壺	町	総高262・胴張232・底径90			

紫波町土館新山神社所蔵文化財一覧

時代	鈕	出土・伝来など	備考	No.
平安中期	菊	明治17(1844)年9月出土	三珠文二重格子双雀鏡・笹双雀鏡・縁沿240度亀裂	1
平安末期	菊	明治19(1886)年3月出土	籬の中に秋草 籬にとまる雀と飛ぶ雀	2
平安末期	菊	明治19(1886)年3月出土	羽黒鏡の山吹双雀鏡に同じ ほぼ半分欠損	3
平安末期	菊	明治19(1886)年3月出土	菊花に双雀 剥離と小破れ	4
鎌倉初期	菊	奥宮東方羽黒堂伝来	八弁花(秋明菊風)に双雀 波文	5
鎌倉中期	菊	不詳・町教育委員会保管	菊花に双雀 流水文	6
鎌倉後期	亀	不詳・町教育委員会保管	全面亀甲地四つ星 亀の頭先に双雀	7
江戸全期	亀	鶴亀接吻蓬菜鏡(ボテ鏡)	縁厚5mm 紐房 天下一 三雛鳥	8
江戸全期	亀		縁厚3mm 鑄上やや不鮮明 天下一若狭守 三雛鳥	9
江戸全期	亀		縁厚3mm 老松に竹 州浜	10
江戸全期	亀		縁厚3mm 松幹線鑄 鑄上やや不鮮明 鈕潰れ	11
江戸全期	亀		縁厚3mm 州浜 花置亀紐	12
江戸中・後期			大家紋鏡 鑄上劣化を隠す	柄38欠×23 藤原政重
寛文・正徳・寛延		柄120×45 天下一人見和泉掾政次 竹巻		14
江戸後期		柄23欠×30 天下一吉次作 中村越後守吉次と岸本武蔵守吉次は後期		15
江戸中期		柄76×20 藤原金益 野田和泉守金益享保20年作あり		16
江戸前期		柄110×47 遠鷹羽紋漆箱あり 中村因幡守藤原吉重		17
江戸全期		柄105×40 天下一中村和泉掾政次 和泉守政次 前期から後期まで確認		18
江戸中・後期	大文字入鏡 名所鏡 鑄上劣化を隠す 重次は大坂田辺橋西角居住	柄96×40 天下一人見和泉守藤原重次 竹巻	19	
		柄98×42 天下一藤原吉次 伊賀守吉次・伊豆守吉次ともにあり	20	
		柄100×35 天下一木村若狭守 政次・正次 竹巻	21	
		柄88×22 天下一藤原作	22	
江戸全期	吉祥蓬菜柄鏡	柄100×45 天下一松村因幡守藤原義信	23	
元禄・享保	光長は中期	柄88×25 津田薩摩守家重 元禄5・元禄9・享保 竹巻	24	
江戸全期	天下一吉次は前期	柄未計測 藤原光長作 宝永6・文久2	25	
江戸全期	人見和泉守藤原重次は寛文から文久までである	柄98×34 藤原吉重作	26	
江戸中期～後期		柄58×15 藤原光永 鏡面一部欠損	27	
鎌倉時代	頭上化仏九面 四臂合掌印定印	明治17(1884)年9月出土 総高と台座幅	28	
	面径189・縁高10・像総高135・像高110・頂顎26・面幅23・台座幅67・臂張55		29	
	面径278・縁高8・像総高185・像高165・頂顎30・面幅32・台座幅105・臂張70		30	
	左半身肩から台座まで残る 蕾蓮水瓶を左手に持つ		31	
	頭部欠損 智拳印を結ぶ		32	
	鏡板中尊像右側から欠損 蕾蓮を持つ 全体に茶色が強い		33	
	右半身と台座残る 如意輪観音菩薩風の右手が二臂残る		34	
	鏡板頭部欠損で阿弥陀定印あるいは説法印 如来像か		35	
1739年	奉納 御宝前 元文四歳末八月十七日 施主志和南片寄邑村上惣太左衛門子惣兵衛与助		36	
1825年	奉納 新山大権現 文政八乙酉三月十七日 願主当村講中		37	
1870年以降	奉納 新山社		38	
室町末期	箱形台座・火炎光背 奥宮南隣不動堂の本尊		39	
江戸前期	萬治三年 為三ノ宮壽盛菩提也 八月廿日		40	
江戸前期	萬治三年 為吉野 常松菩提也 八月廿日		41	
江戸末期			42	
平安後期	肩に薄緑色の自然釉 奥宮西方 昭和30年(1955)ころ道路道路工事で発見		43	



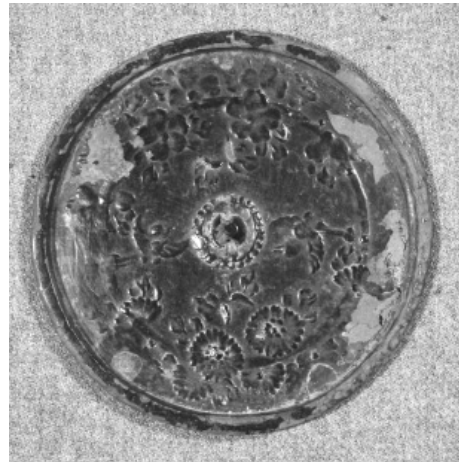
1 銅双雀鏡（鵲円鏡）  
県指定



2 銅秋草双雀鏡  
県指定



3 銅梅花鏡（山吹双雀鏡）  
県指定



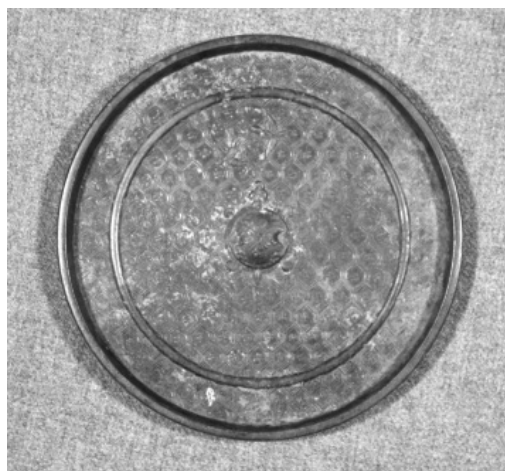
4 銅菊花双雀鏡  
県指定



5 銅秋草双雀鏡  
町指定



6 銅菊花双雀鏡


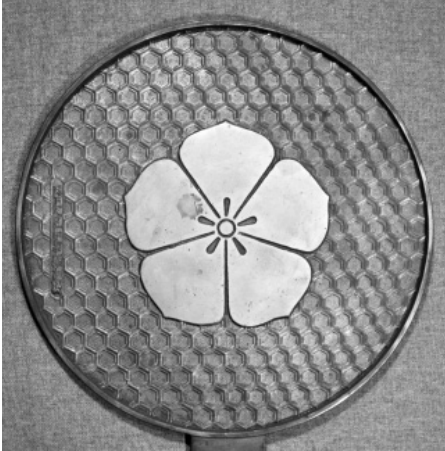




7 銅亀甲地双雀鏡



8 丸揚羽蝶紋双鶴接吻蓬萊鏡  
銘天下一 紐房付

	
<p>9 無紋双鶴接吻蓬萊鏡 銘天下一若狹守 (三籬)</p>	<p>10 五三桐紋双鶴接吻蓬萊鏡 (老松苔)</p>
	
<p>11 五三桐紋双鶴接吻蓬萊鏡 (松幹線描)</p>	<p>12 無紋双鶴接吻蓬萊鏡 (花置亀鈕)</p>

	
<p>13 六角内三葉紋花菖蒲柄鏡 銘藤原政重 柄欠損</p>	<p>14 亀甲地桔梗大紋柄鏡 銘天下一人見和泉掾政次</p>
	
<p>15 菱内二重丸十文字四星大紋柄鏡 銘天下一吉次作 柄欠損</p>	<p>16 丸内三割菊花外菊葉大紋柄鏡 銘藤原金益</p>



17 鳶陰鳶大紋松竹南天鶴亀柄鏡  
銘中村因幡守藤原吉重



18 七五桐大紋柄鏡  
銘天下一中村和泉掾政次

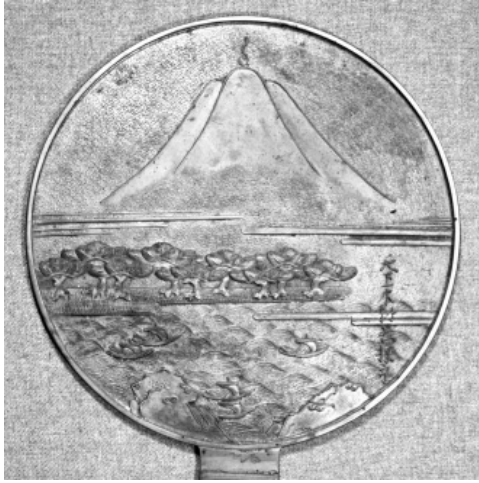


19 八橋文字入光琳波燕子花図柄鏡  
銘天下一人見和泉守藤原重次



20 丹頂文字入瑞雲双鶴図柄鏡  
銘天下一藤原吉次





21 三保の松原富士帆掛船図柄鏡  
銘天下一木村若狭守



22 金雲磯辺楼閣山水図柄鏡  
銘天下一藤原作



23 松竹鶴亀荒磯蓬萊図柄鏡  
銘天下一松村因幡守藤原義信



24 松竹梅鶴亀蓬萊図柄鏡  
銘津田薩摩守家重



25 松竹鶴亀蓬菜図柄鏡  
銘藤原光長作




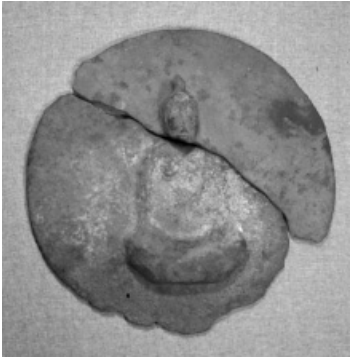






26 松竹鶴亀蓬菜図柄鏡  
銘藤原吉重作



27 松竹鶴亀蓬菜図柄鏡  
銘藤原光永鏡面一部欠損



28 金銅懸仏 中尊  
(千手千眼観音菩薩坐像)

	
29 鉄造聖観音菩薩坐像懸仏（5片）	30 鉄造坐像懸仏（2片）
	
31 鉄造聖観音菩薩坐像懸仏（2片）	32 鉄造坐像懸仏（2片）
	
33 鉄造聖観音菩薩立像懸仏（1片）	34 鉄造菩薩坐像懸仏（1片）
	
35 鉄造坐像懸仏（1片）	断片



39 木造不動明王坐像



40 木造衿羯羅童子立像



41 木造制多迦童子立像



42 厨子入十一面観音菩薩立像



43 常滑産三筋文壺



木造不動明王二童子像（39、40、41）